【授業科目】一般検査学実習Ⅰ　General Specimen Analytical Technolgy PracticeⅠ

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
小菅 優子	２年次 前　期	必 修	1	30	実 習	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／検体を用いて尿の観察から化学的検査項目である比重、尿タンパク、尿糖の定性および定量試験、尿ケトン体、尿ビリルビン、尿ウロビリノーゲン、潜血試験についての手技・手法の実習を通して教授する。また、これら検査項目の偽陽性・偽陰性を調べ、検査の正確性を保てる臨床検査技師の知識を教授する。尿沈渣検査法では、標本の作成および染色法、鏡検を体験させる。尿中成分の形態学的特徴を、身体の構造、特に疾病時の臓器・組織・細胞等の形態学的検査とともに講義する。実習形式で個人ワークやグループワークを通して学生が主体的に参加し、実習を展開する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。
実務経験に関する 授業内容	一般検査学の臨床経験を持つ教員が、臨床検査技師として必要な尿検査、糞便検査などの一般検査について経験を交えながら実習をする。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①臨床現場で測定可能な技術を身に付けることができる。 ②定性検査での正確な判断基準を説明することができる。 ③尿沈渣標本作成法や細胞の鑑別を説明できる。
時間外学習に必要な 学修内容および 学習上の助言	第1～15回事前学修：指定の教科書を事前に読み、解らない用語について調べておくこと（各60分）。 第1～15回事後学修：各回での学びを復習することで確認し、解らなかったことは調べ教員に質問する（各60分）。 ＊その他に、講義で学んだことを振り返るための課題を課すことがある（各120分）。 ※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第 1 回　尿検査１：色調、混濁、比重 第 2 回　尿検査２：試験紙検査方法、多項目試験、 第 3 回　尿検査３：尿タンパク定性試験、定量試験 第 4 回　尿検査４：尿糖定性試験、定量試験 第 5 回　尿検査５：尿ケトン体、尿ビリルビン、尿ウロビリノーゲン① 第 6 回　尿検査６：尿ケトン体、尿ビリルビン、尿ウロビリノーゲン② 第 7 回　尿検査７：潜血試験の偽陽性・偽陰性 第 8 回　尿沈渣１：尿沈渣標本作成法 第 9 回　尿沈渣２：尿中細胞の形態学的特徴 第10 回 尿沈渣３：尿沈渣成分の観察 第11 回　尿沈渣４：尿沈渣成分スケッチ 第12 回　尿沈渣５：尿沈渣標本作成および観察① 第13 回　尿沈渣６：尿沈渣標本作成および観察② 第14 回 実技試験① 第15 回　実技試験②
	全て小菅
評価方法 評価基準	成績は以下の評価配分によって総合的に判断する。 単元ごとのレポート 50%、　実技試験 50%
教科書	『最新臨床検査学講座 一般検査学』 医歯薬出版株式会社 ※1年前学期「一般検査学」で使用したもの
参考書等	なし
学生への メッセージ	実習は各自、積極的に取り組んでください。 レポートの作成は自身のレポートを見て、次に同じ手技が出来るように方法、注意点を記載してください。